

令和5年度 学校評価ダイジェスト版（教育活動の取り組みについて）

①「豊かな学びの場 わかくさ」の視点で「わくわく、かかわり、くふう、さいご」をもとに授業改善に取り組む。

<学校運営連絡協議会 委員（6名）の評価>

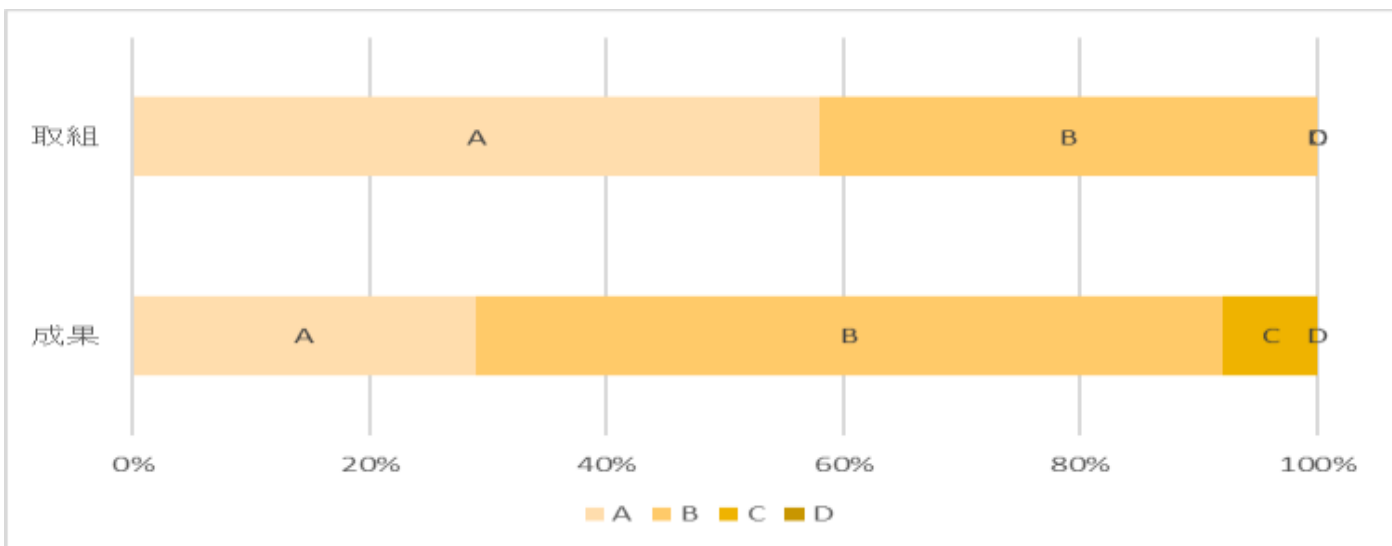
A 2人      B 3人      C 0人      D 0人      無回答 1人

A：取組と成果は達成している B：取組と評価はおおよそ達成している C：取組と成果は達成しているとはいえない D：取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・わくわくを維持しながらの授業は難しいと思います。
- ・小黒板に、授業の課題を書き、明確に課題を提示している授業が多い。
- ・まじめに学習に取り組んでいる子が多く、教師の指示が通らない等の学級がない。
- ・先生方がまじめに授業に取り組んでいる。
- ・講師の先生の授業に課題がある。
- ・学校教員が作った問題ではなく、教材から感じることであるが、私達小学生時、基礎の反復であった学習方法とは違い、高学年となると出題者の意図で考えなければならないかと感じることがある。例にあげると算数の問題、割合を求める問題で小数第1位を四捨五入するといった文言が書かれている。計算すると割り切れず、0.000と小数点以下が続き、この時点で四捨五入すると0%になってしまう。しかし、正解は先に%を出してから四捨五入するといったもの。出題者の意図が問題文に明記されていないため、混乱する子供が多いのでは？と思う。学習内容が多様化するあまり1教科にかける時間が少なくなっており、ついていけず解らないから学校に行ってもつまらないといった不登校に繋がっている要因なのではと感じる。

<教員の自己評価>



上グラフ（取組） A：意識して計画的に取り組んでいる B：おおむね取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない

下グラフ（成果） A：十分に達成している B：おおむね達成している C：できているとは言えない D：ほとんどあらわれていない。

<今後の教育活動に向けて>

今年度は「自分に自信をもち、すすんで課題を解決する児童の育成」を目指し取り組む中で、個々の教員の授業改善を進めてきた。しかしまだまだ改善の過程であり、継続的にこれまでの取組を行っていくことが不可欠である。そこで今年度の研究を来年度も引継ぎ、更なる指導法の開発と児童の自己肯定感と自尊感情の向上を図っていく。またICT機器をより効果的に活用することにより、児童の学ぶ意欲を刺激し、児童が主体的に学ぶ授業の実現に向けて力を尽くす。

②学習規律、学習習慣を身に付けられるように「若草小学びの約束」などをもとに系統的で継続した指導を徹底する。

<学校運営連絡協議会 委員（6名）の評価>

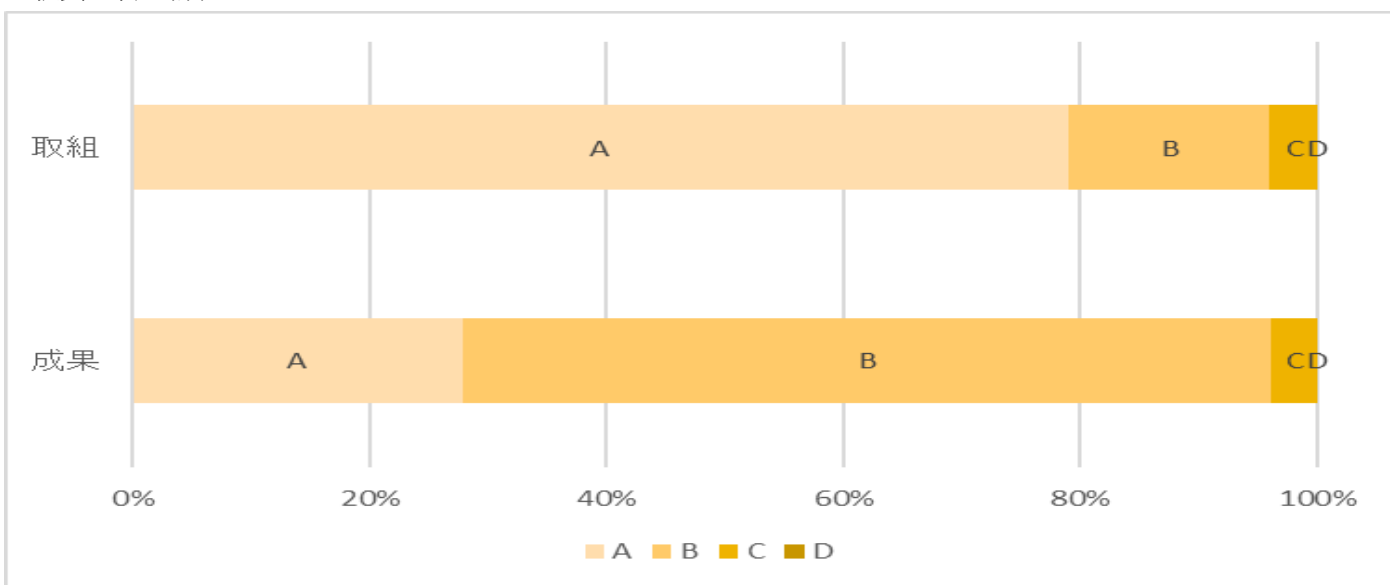
A 2人      B 4人      C 0人      D 0人

A：取組と成果は達成している B：取組と評価はおよそ達成している C：取組と成果は達成しているとはいいがたい D：取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・「若草小学校の約束」は文字だけ読むと厳しい印象を持ちます。先生達同士で共通理解を持つことが大切かと思いました。
- ・約束させ、守らせながらの指導は大切だと思います。
- ・授業参観に参加して感じたことですが、外来者が同席しているからかもしれませんが、教える先生が少々委縮しているように感じました。父兄がいようがいまいが、授業態度不良な子には、学校授業はこのようなものだと自信をもって、指導頂ければと感じました。
- ・学習ルール、決まりは徹底されている。
- ・特別教室に行くとき、きちんと整列して静かに行動している。教師がついていくクラスと子供だけで歩行しているクラスがある。
- ・「学びの約束」はだいたいの子が守られている。次の学習に必要なものを机の上に出しておくは、あまり守られていない子もいる。シャーペンを使用している子もいる。

<教員の自己評価>



上グラフ（取組） A：意識して計画的に取り組んでいる B：おおむね取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない  
下グラフ（成果） A：十分に達成している B：おおむね達成している C：できているとは言えない D：ほとんどあらわれていない。

<今後の教育活動に向けて>

規律の定着には、指導を継続して行っていくことが重要であると考えている。来年度も引き続き、「わかくさのあたりまえ」を生活規律・学習規律のスタンダードとして、身に付くように全校の教職員が一体となって粘り強く繰り返し指導を行っていく。

③一人一台端末やデジタル教科書、電子黒板等を活用することで、児童が主体的に学ぶ多様な授業を展開する。

<学校運営連絡協議会 委員（6名）の評価>

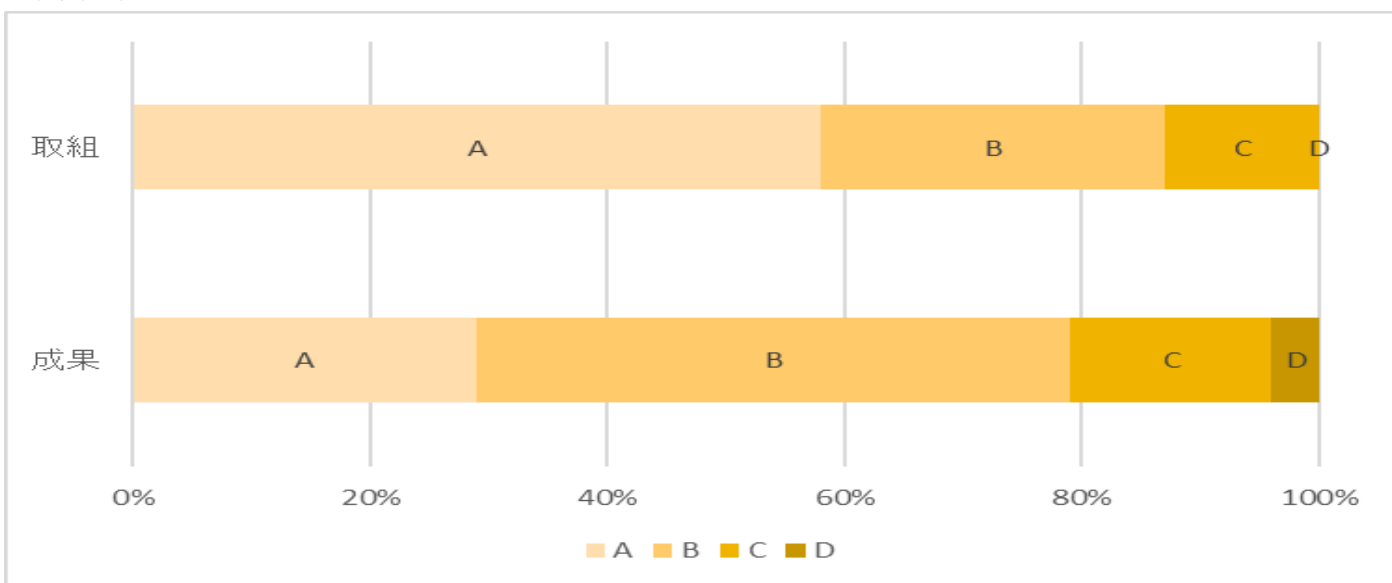
A 3人      B 2人      C 0人      D 0人      無回答 1名

A：取組と成果は達成している B：取組と評価はおおよそ達成している C：取組と成果は達成しているとはいいがたい D：取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・今の時代にマッチした教材の使用は良いことだと思います。
- ・デジタル教科書、電子黒板を使いこなし、授業の中で生かされている。
- ・低学年から高学年まで、子供たちはタブレットを使いこなしている。先生方のご指導の成果であると思う。

<教員の自己評価>



上グラフ（取組） A：意識して計画的に取り組んでいる B：おおむね取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない

下グラフ（成果） A：十分に達成している B：おおむね達成している C：できているとは言えない D：ほとんどあらわれていない。

<今後の教育活動に向けて>

日常的に ICT 機器を活用した授業を行うことができている。またデジタル教科書の扱い方にも慣れてきており、児童の視覚に訴えた分かりやすい授業を提供できている。ただ新しい機能やアプリの活用など ICT 機器は日々進化しており、日常的な OJT はもちろん、校内研修を充実させていく。また、ICT 機器の効果的な活用については、教師同士の授業の相互参観や、日常的に相談や学ぶ機会を整備していく。

④豊かな直接体験の場として、ゲストティーチャーや地域人材を活用した授業を各学年で実施する。

<学校運営連絡協議会 委員（6名）の評価>

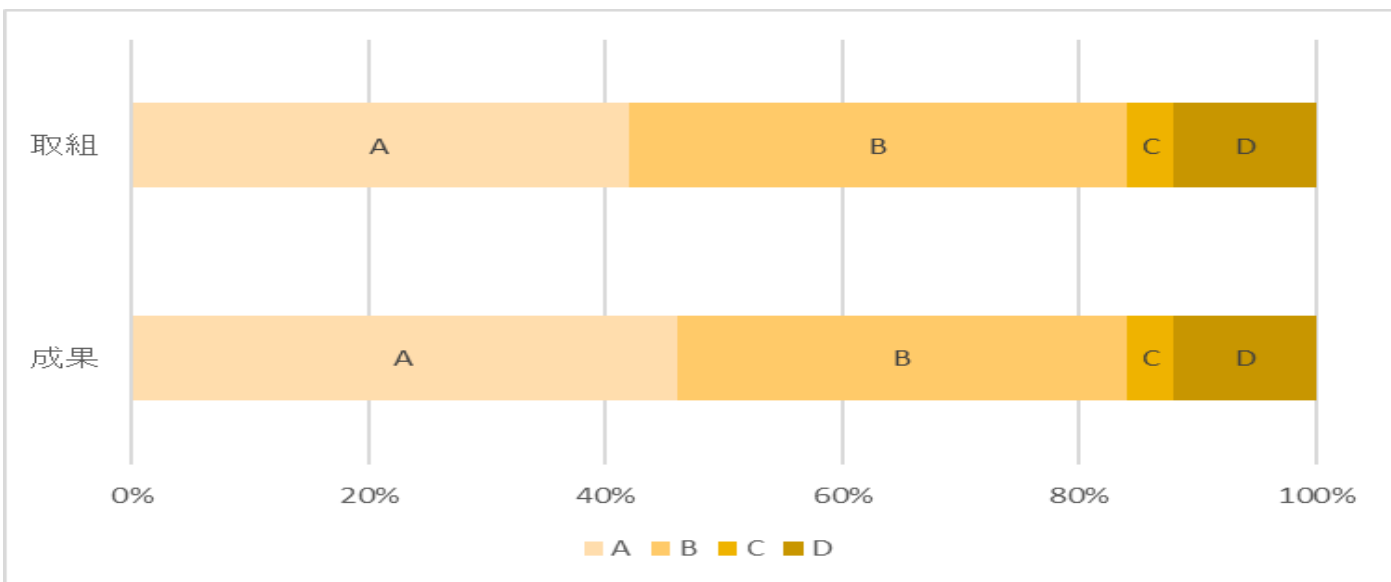
A 4人 B 1人 C 0人 D 0人 無回答 1名

A：取組と成果は達成している B：取組と評価はおおよそ達成している C：取組と成果は達成しているとはいえない D：取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・その道の達人を呼び、指導することはとても大切だと思います。
- ・年間50回以上（昨年は30回）のゲストティーチャーを招聘しているとのこと、子供たちにとっては、興味を持ち、意欲的に取り組めたと思う。
- ・机上で板書する授業だけでなく見て触れて感じるといった授業が増え、感性を養うには良い授業と思う。続けていって欲しい。

<教員の自己評価>



上グラフ（取組） A：意識して計画的に取り組んでいる B：おおむね取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない

下グラフ（成果） A：十分に達成している B：おおむね達成している C：できているとは言えない D：ほとんどあられていない。

<今後の教育活動に向けて>

コロナ禍が終わり、ゲストティーチャーによる活動を年間約50回程度行うことができた。来年度も年間方法を工夫しながらも6年間を通じて様々な機会を与えられるよう計画を立て、実施する。音楽や芸術、青梅学など、計画的に、ゲストティーチャーによる授業を積極的に実施していく。

⑤「わかくさミュージックイヤー2023」と位置付け、音楽に親しむ機会や環境をつくり、関心・意欲を高めるための活動を推進する。

<学校運営連絡協議会 委員（6名）の評価>

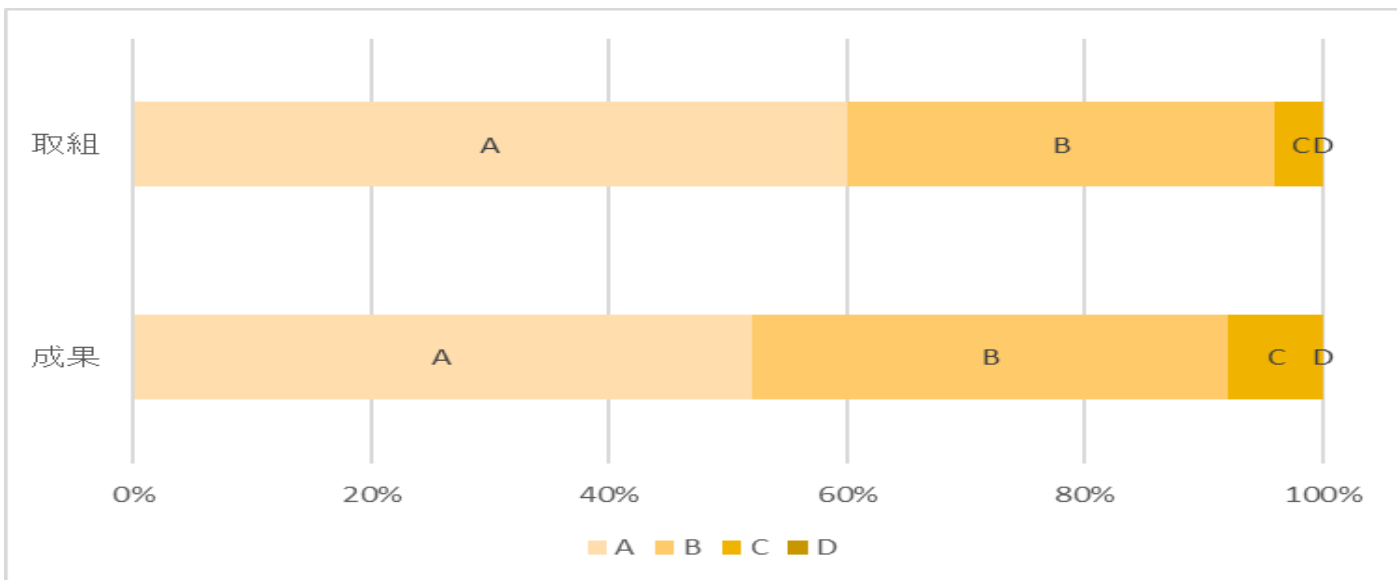
A 6人      B 0人      C 0人      D 0人

A：取組と成果は達成している B：取組と評価はおおよそ達成している C：取組と成果は達成しているとはいえない D：取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・音楽はいつまでも心に残ります。今後も積極的に取り入れて欲しいと思います。
- ・音楽会を参観させていただいたが、どの子どもも本気で取り組んでいた。
- ・音楽会の参観では、学校・生徒・家庭と結びつけられる大切な教育課程と、感心させられました。子供たちが社会に出たら、自己主張だけでなく、社会に同調しながら自己主張して行くことが大切なことを、体験させていると思います。

<教員の自己評価>



上グラフ（取組） A：意識して計画的に取り組んでいる B：おおむね取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない  
下グラフ（成果） A：十分に達成している B：おおむね達成している C：できているとは言えない D：ほとんどあらわれていない。

<今後の教育活動に向けて>

「豊かな学びの場」として、来年度は、「わかくさアートイヤー2024」とし、芸術に対して日常的に関われたり触れたりする機会を積極的に設定していく。特に、地域や保護者などとも連携し、活動を更に発展・充実させていく。

⑥自尊感情・自己肯定感を高めるために、自分の判断や行動に自信をもたせたり、自分のよさを感じたりできる教育活動の工夫をする。

<学校運営連絡協議会 委員（6名）の評価>

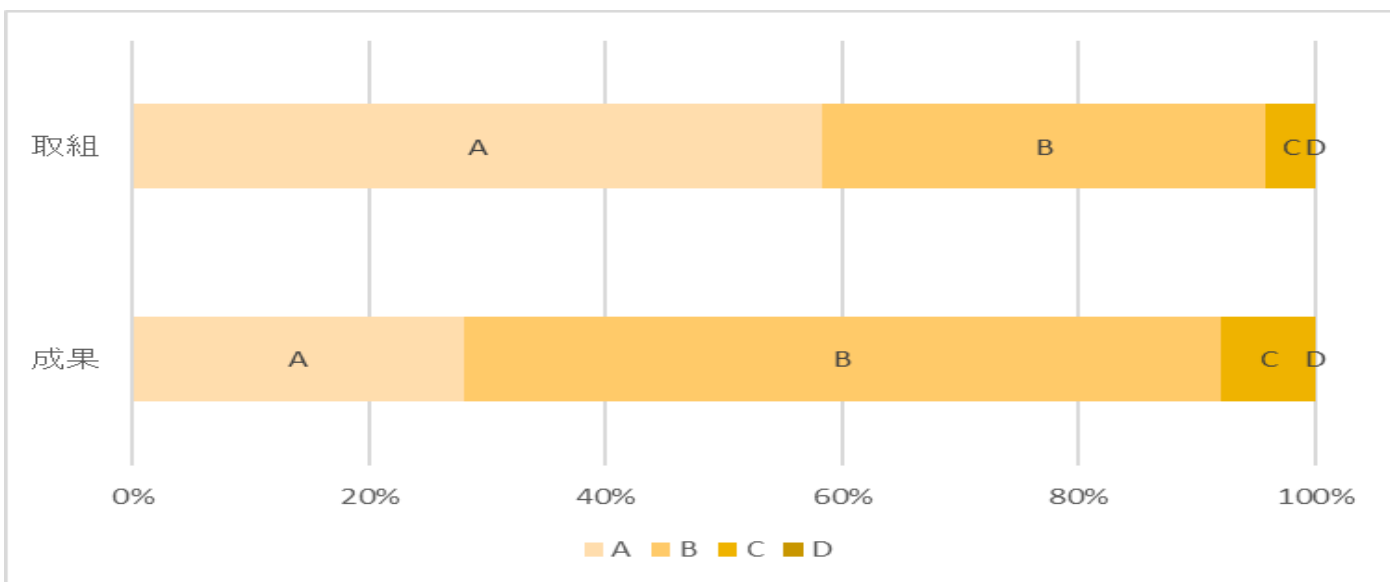
A 2人      B 3人      C 0人      D 0人      無回答 1人

A：取組と成果は達成している B：取組と評価はおよそ達成している C：取組と成果は達成しているとはいえない D：取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・継続して取り組んで欲しいです。よろしくお願い致します。
- ・アンケートも昨年より、良くなっているとのこと、素晴らしいことだと思います。
- ・一日一回は褒められたり、認められたり。全員の子が味わうことができないか。特に叱られることが多い子、目立たない子、理解するのに時間がかかる子には。
- ・自分に自信を持たせる授業はとても難しいと思います。大事なことなのですが・・・。

<教員の自己評価>



上グラフ（取組） A：意識して計画的に取り組んでいる B：おおむね取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない  
下グラフ（成果） A：十分に達成している B：おおむね達成している C：できているとは言えない D：ほとんどあらわれていない。

<今後の教育活動に向けて>

校内研究で得られた知見を、日々の学校生活のあらゆる場面で活用していく。「できる」「分かる」「認められる」ことが自己肯定感や自尊感情の向上には欠かせないものである。「できる」「分かる」授業の実践と特別活動などの時間に互いを認め合う場面の設定などを行っていく。

⑦障害のあるなし、得意不得意にかかわらず誰もが安心して学べる学習環境をつくる。(特別支援教育への理解)

<学校運営連絡協議会 委員(6名)の評価>

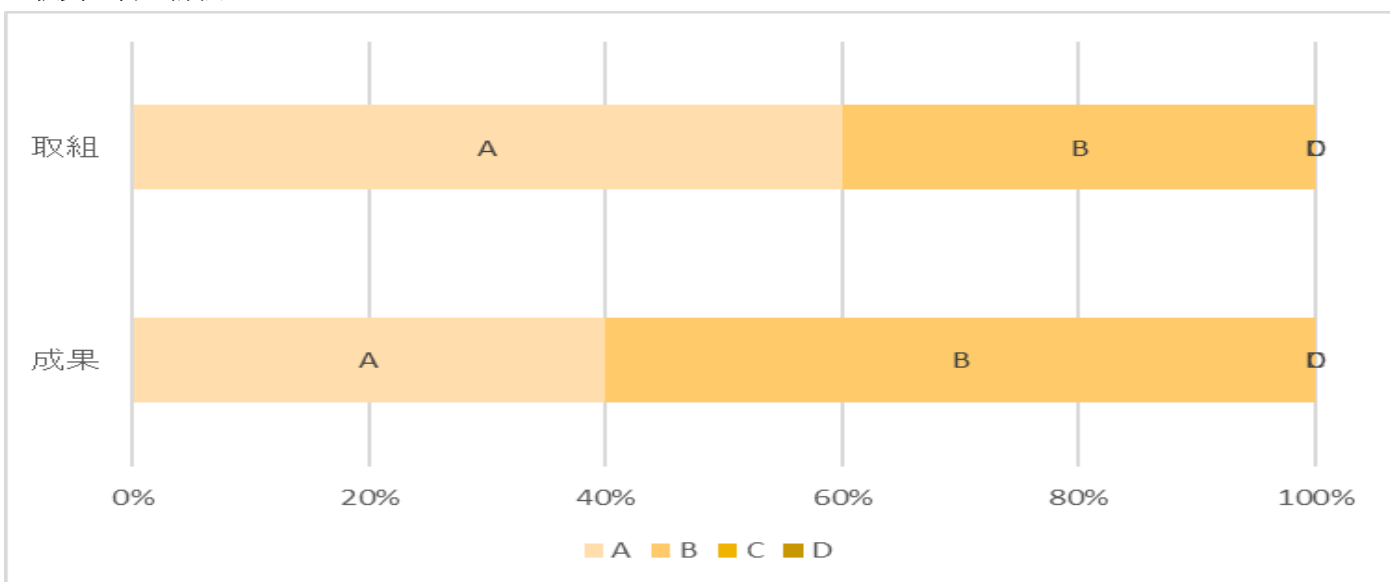
A 3人      B 2人      C 0人      D 0人      無回答 1人

A: 取組と成果は達成している B: 取組と評価はおおよそ達成している C: 取組と成果は達成しているとはいえない D: 取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・理解を深めるために空き時間に・・・。「空き時間に」という所がひっかかりました。わかくさ学級との理解は重要と思いますので、よろしくお願い致します。
- ・当校にはわかくさ学級があるので情報共有してご指導をお願い致します。
- ・人権を尊重して差別のない、安心して学べる学校、クラスに是非お願いしたい。
- ・優しい気持ちの子供たちが多く感じている。
- ・欠席日数の多い子、もう少し減らせないか。(子供の数、日数ともに)

<教員の自己評価>



上グラフ(取組) A: 意識して計画的に取り組んでいる B: おおむね取り組んでいる C: あまり取り組んでいない D: 取り組んでいない

下グラフ(成果) A: 十分に達成している B: おおむね達成している C: できているとは言えない D: ほとんどあられていない。

<今後の教育活動に向けて>

意図的、計画的に障害理解教育を実施しているが、今後もこの取組を続けていく。通常学級とわかくさ学級との交流及び共同学習の実施について、6年間を通して発達段階に応じた交流学习をするために、学校全体の交流及び共同学習の全体計画作成し、活動を工夫して、実施をしていく。また、通常級、特別支援固定級にかかわらず、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくりを目指し、障害のあるなしにかかわらず、「分かりやすい」授業を目指す。

⑧小・中学校で共通して家庭学習強化期間の機会を設定し、家庭学習を計画的に行う習慣が身に付くように啓発する。(小中一貫教育の視点)

<学校運営連絡協議会 委員（6名）の評価>

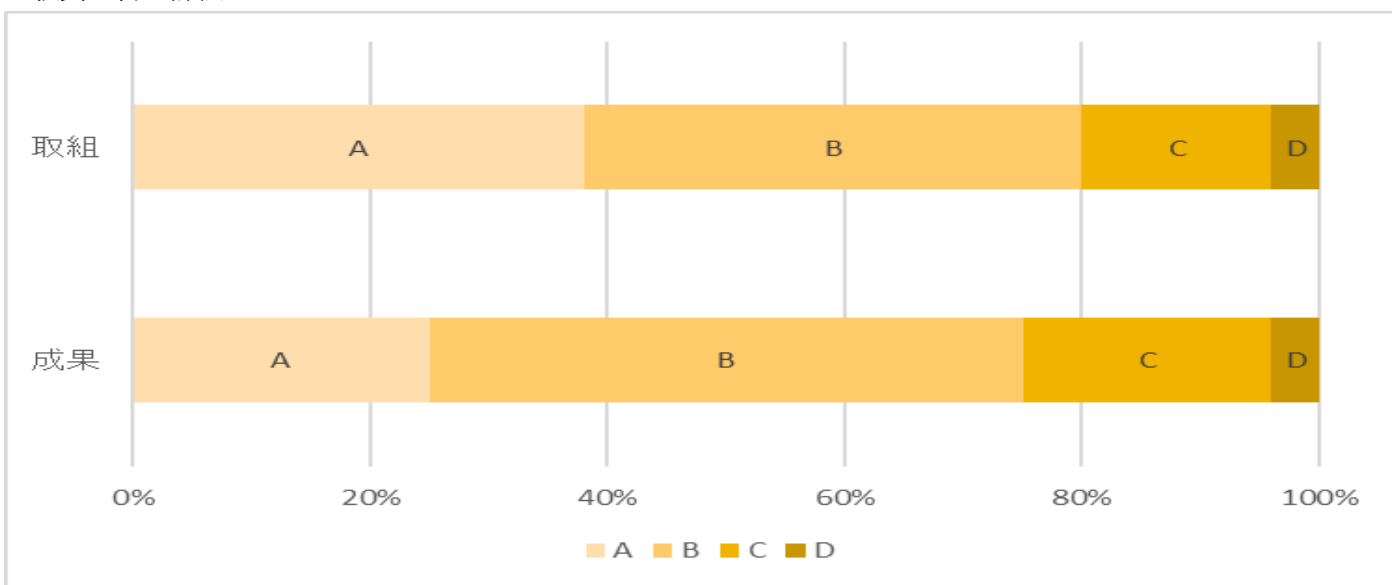
A 1人 B 5人 C 0人 D 0人

A：取組と成果は達成している B：取組と評価はおよそ達成している C：取組と成果は達成しているとはいえない D：取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・家庭での学習強化はなかなか難しいと思います。継続的な指導も必要だと思います。
- ・家庭で・・・。
- ・家庭学習は、学校で習ったことを、家庭に帰っても、より多い量をこなすことで身に付けることなのか。学生にも差はあると思いますが、家庭で自習することは、学校で完全に覚えこまないと、家庭にアドバイスしてくれる人は別ですが、自習は手に付かない方もおられるのではないかと考えます。従って授業では、市販されている商品の扱いマニュアルのような、指導がなされないと難しいのではないかと考えます。
- ・計画的な家庭学習は、保護者の理解や協力も必要となる。保護者への理解や協力をどのようにしているのか。
- ・小中連携で取り組むとのこと、他のことでも連携して、効果が上がる内容もあるのではないかと考えます。小学校独自に家庭学習の習慣を身に付ける努力も必要ではないかと考えます。

<教員の自己評価>



上グラフ（取組） A：意識して計画的に取り組んでいる B：おおむね取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない

下グラフ（成果） A：十分に達成している B：おおむね達成している C：できているとは言えない D：ほとんどあらわれていない。

<今後の教育活動に向けて>

家庭学習の大切さや取り組み方について、児童の理解を高めていくことに加え、保護者会の機会には、保護者と家庭学習をテーマに話す機会をもつようにする。

また、小中連携による家庭学習の習慣付けに家庭学習強化週間を設ける。さらに各校での取り組みを見える化させることで、他校の良い実践を本校でも取り入れていく。また、本校児童が中学校に進学する際には、学習や生活面の様子はもちろん、登校などの状況などもしっかり引継ぎを行っていき、中学校生活が安心してスタートを切れるように配慮していく。



⑨ユニバーサルデザインを意識した統一した教室環境を行い、学びの場としてふさわしい整った環境をつくる。

<学校運営連絡協議会 委員（6名）の評価>

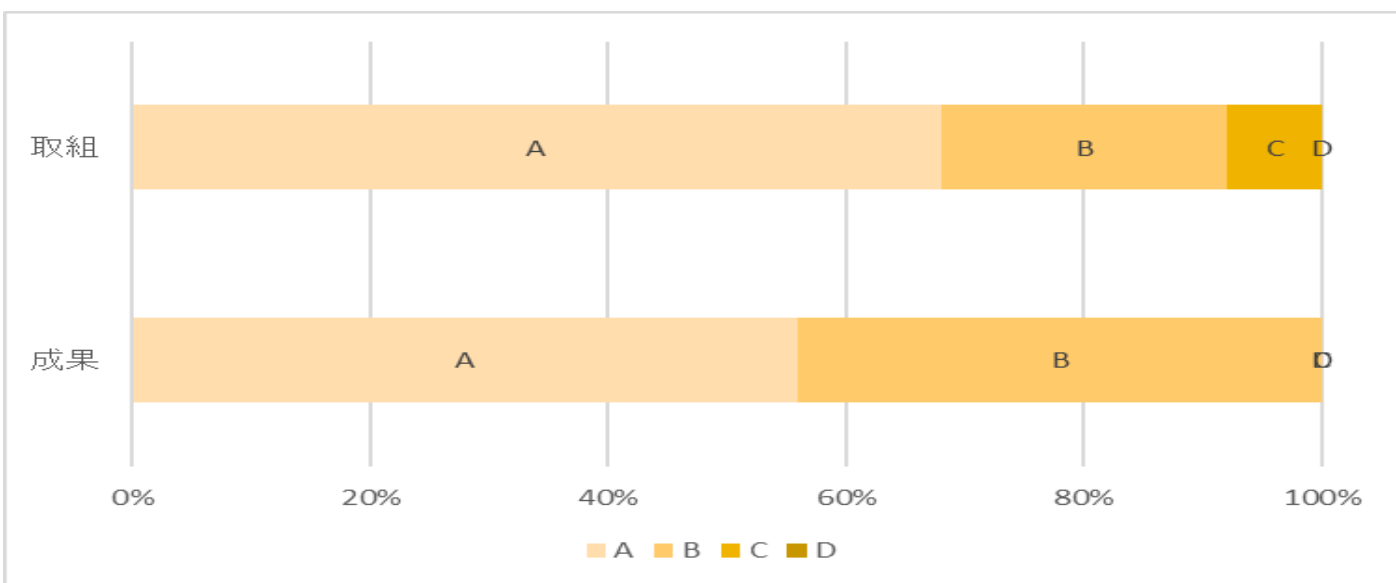
A 4人 B 1人 C 0人 D 0人 無回答 1人

A：取組と成果は達成している B：取組と評価はおおよそ達成している C：取組と成果は達成しているとはいえない D：取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・教室内の環境は整っていると感じています。
- ・教室の前面は整頓され、すっきりしている教室が多い。
- ・Labo 教室廊下側、保健室廊下、図書室廊下、昇降口入口等の掲示が特に工夫されている。
- ・学級の目標が掲示されている教室もある。ないクラスもある。学校教育目標、担任の願い、子どもの思いが学級の目標としてあって良いと思うが。

<教員の自己評価>



上グラフ（取組） A：意識して計画的に取り組んでいる B：おおむね取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない

下グラフ（成果） A：十分に達成している B：おおむね達成している C：できているとは言えない D：ほとんどあらわれていない。

<今後の教育活動に向けて>

誰にとっても快適な空間になるよう以下のような取組を継続して行っていく。学習に集中して取り組めるよう教室前面は全校で掲示物を統一する。児童が安全に生活できるよう月に1回は全教員で施設の安全確認を行い、必要があればすぐに修繕する。掲示物について、破れていないか、長期間貼りっぱなしになっていないか確認するなど、掲示物の環境に注意を払い、子供たちの興味・関心を高められるように工夫していく。また昇降口や階段など、ごみが溜まりやすい箇所があり、掃除担当だけでなく、学校全体の環境をよい状況に保つことについて、今後も教職員全体の意識を高めていく。

⑩受容的な態度で丁寧に児童と接し、安全への配慮や安心して相談ができるようにする。また、保護者との情報共有を行い、信頼関係をつくる。

<学校運営連絡協議会 委員（6名）の評価>

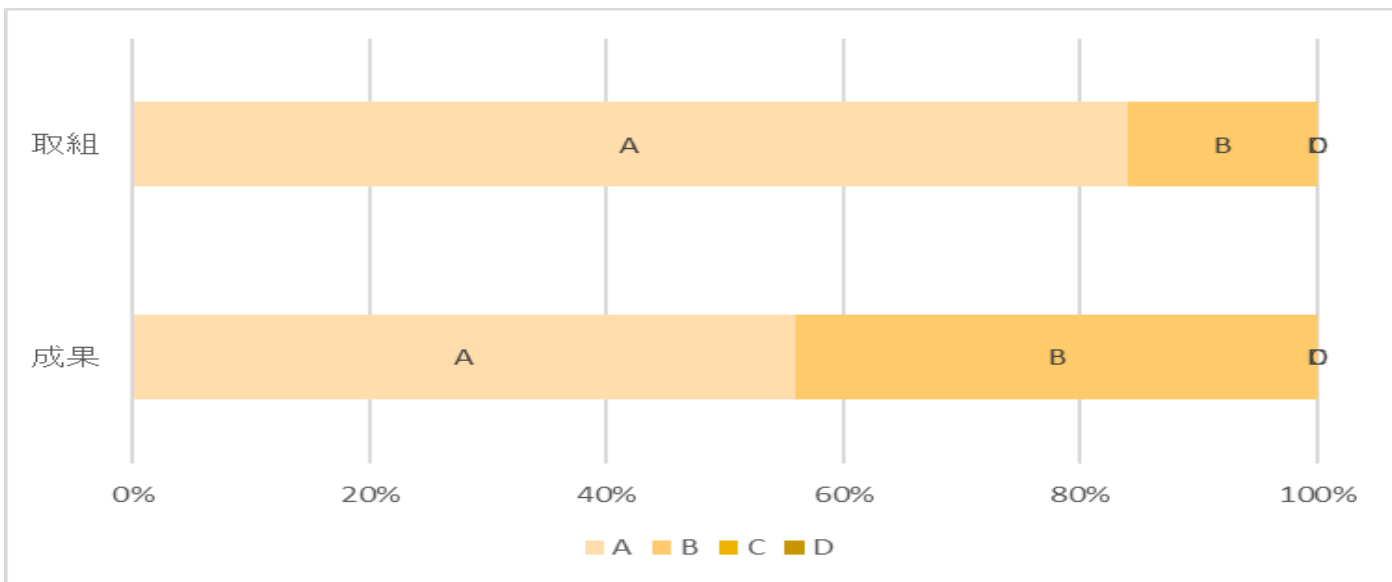
A 5人 B 0人 C 0人 D 0人 無回答1人

A：取組と成果は達成している B：取組と評価はおおよそ達成している C：取組と成果は達成しているとはいえない D：取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・児童と先生はコミュニケーションがとれていると感じます。
- ・子供と担任、保護者と担任。望ましい関係ができているのではないかと。
- ・先生方は子供、保護者の話をよく聞き、適切に対応していると思う。

<教員の自己評価>



上グラフ（取組） A：意識して計画的に取り組んでいる B：おおむね取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない  
下グラフ（成果） A：十分に達成している B：おおむね達成している C：できているとは言えない D：ほとんどあらわれていない。

<今後の教育活動に向けて>

教員が一人一人の児童の話を受容的に聞くことができるよう研修などを通して、カウンセリングマインドを意識したことで、子供や保護者との信頼関係を築くことができた。

養護教諭やスクールカウンセラー、専科教員と学級担任との連携を深め、児童の心の問題に対して、組織的に対応できるようにする。

保護者と情報を密にして学校と家庭が協力して児童を育てるといった雰囲気を更に高めていく。

⑪児童が集団生活のルール、マナー（挨拶、時間を守る、廊下歩行など）社会性が身に付くように指導をする。

<学校運営連絡協議会 委員（6名）の評価>

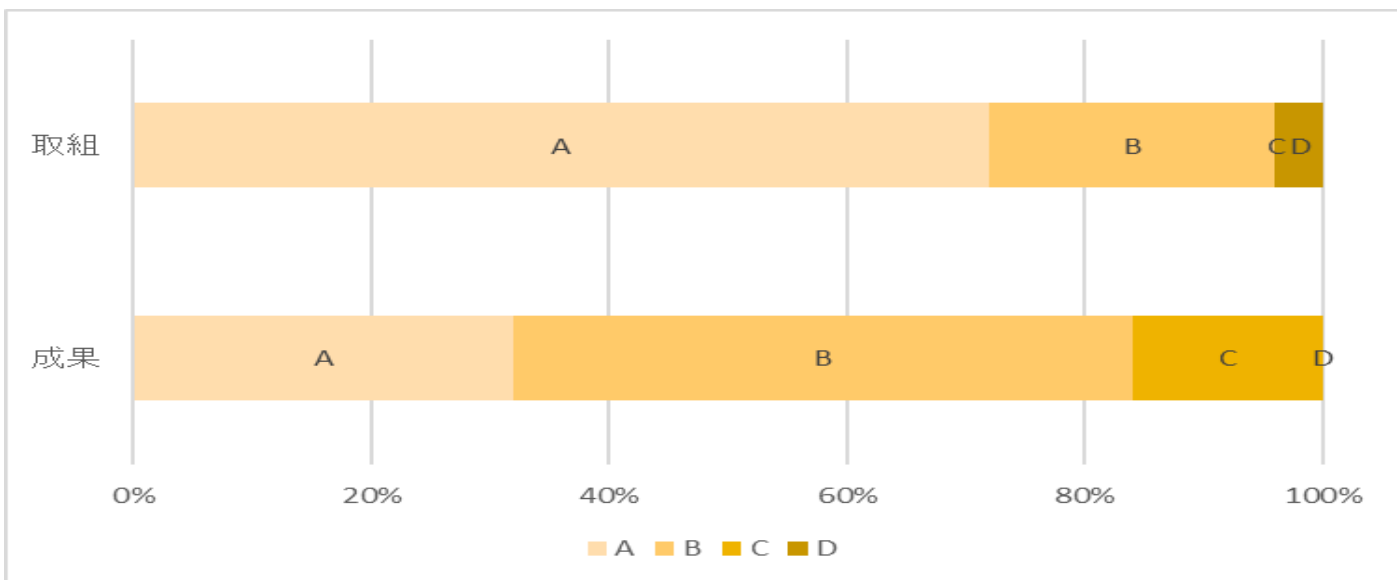
A 3人 B 3人 C 0人 D 0人

A：取組と成果は達成している B：取組と評価はおおよそ達成している C：取組と成果は達成しているとはいえない D：取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・卒園生で一時期学校に行きづらくなった子がいました。しかし、担任の先生が適度に味方になってくれたとの事で今は本人も成長できたと感じているようです。ありがとうございました。
- ・ルール、マナーは身に付いている児童が多いのではないかと。
- ・指導には保護者の理解や協力も必要である。
- ・社会に出る一歩として他人に迷惑をかけないこれが大切だと思います。集団生活にも必要です。引き続き指導をお願いします。
- ・当方が学校訪問した際ですが、廊下で挨拶されてこちらがとまどったことを思い出します。全体だとは思いますが、浸透していると思います。

<教員の自己評価>



上グラフ（取組） A：意識して計画的に取り組んでいる B：おおむね取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない

下グラフ（成果） A：十分に達成している B：おおむね達成している C：できているとは言えない D：ほとんどあられていない。

<今後の教育活動に向けて>

来年度も年間を通して、挨拶や廊下歩行、時間を守ることについて、教員が同じ指導で妥協せず、繰り返し指導する。その際、行動の意味についても考えさせることで、自ら気付く児童の育成を心掛けていく。

児童に学校のきまりが定着するよう、全教員で同じ指導を徹底して行ってきた。今後も継続して取り組んでいく。

⑫体育、なわとび・マラソン旬間、ポッチャ（オリパラレガシー）の機会を活用し、子供たちが楽しく運動し、健康な生活を送ろうとする態度を育てる取組を行う。

<学校運営連絡協議会 委員（6名）の評価>

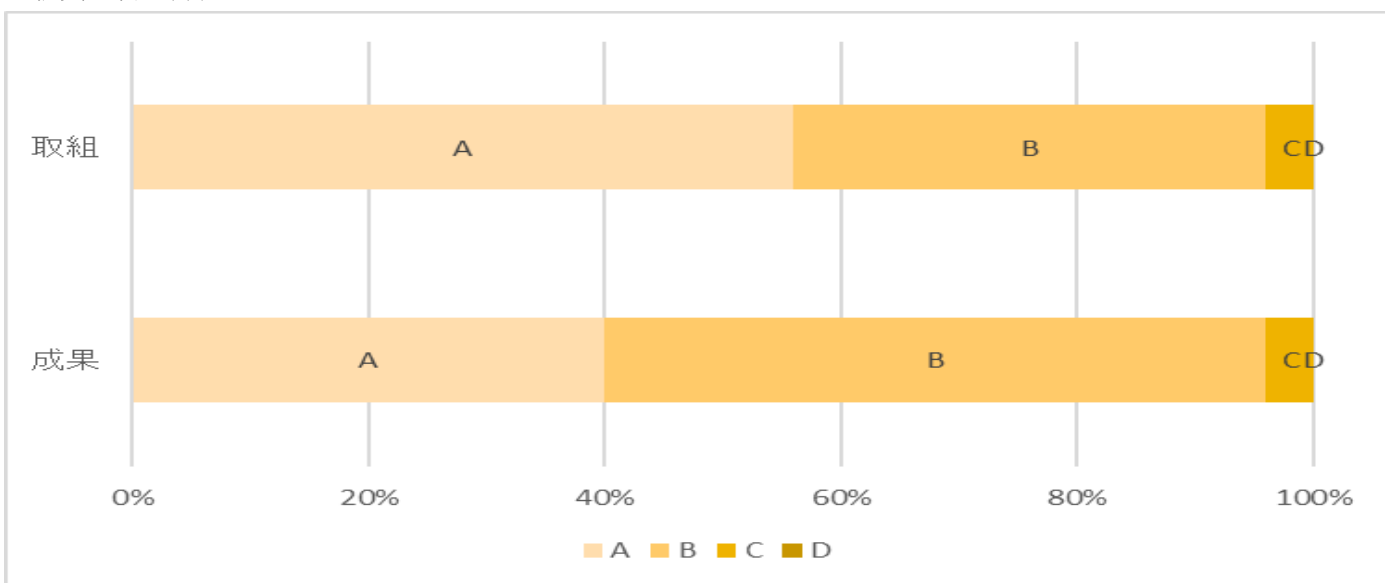
A 3人 B 2人 C 0人 D 0人 無回答 1人

A：取組と成果は達成している B：取組と評価はおおよそ達成している C：取組と成果は達成しているとはいいがたい D：取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・基本的に体を動かすことは好きと思いますが、そうではない子供たちも運動できるよう、指導をお願いします。
- ・なわとび、マラソンと計画的な取り組みができたのではないかな。
- ・休み時間に外で元気に遊んでいる子が多い。教室にいる子もいるが。

<教員の自己評価>



上グラフ（取組） A：意識して計画的に取り組んでいる B：おおむね取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない

下グラフ（成果） A：十分に達成している B：おおむね達成している C：できているとは言えない D：ほとんどあらわれていない。

<今後の教育活動に向けて>

コロナ禍を経て、子供たちの体力が落ちている。喫緊の課題として、児童の体力向上の意識を高めていく。マラソン旬間や縄跳び旬間の取組は、子供たちの健康体力向上の意識を高める上で、大変有効であると考えます。今後も計画的にしっかり取り組んでいく。

⑬分かる、楽しい授業づくりのために主体的に研修をし、発信する。(校内研究授業、カフェテリア研修、外部研修会への参加など)

<学校運営連絡協議会 委員(6名)の評価>

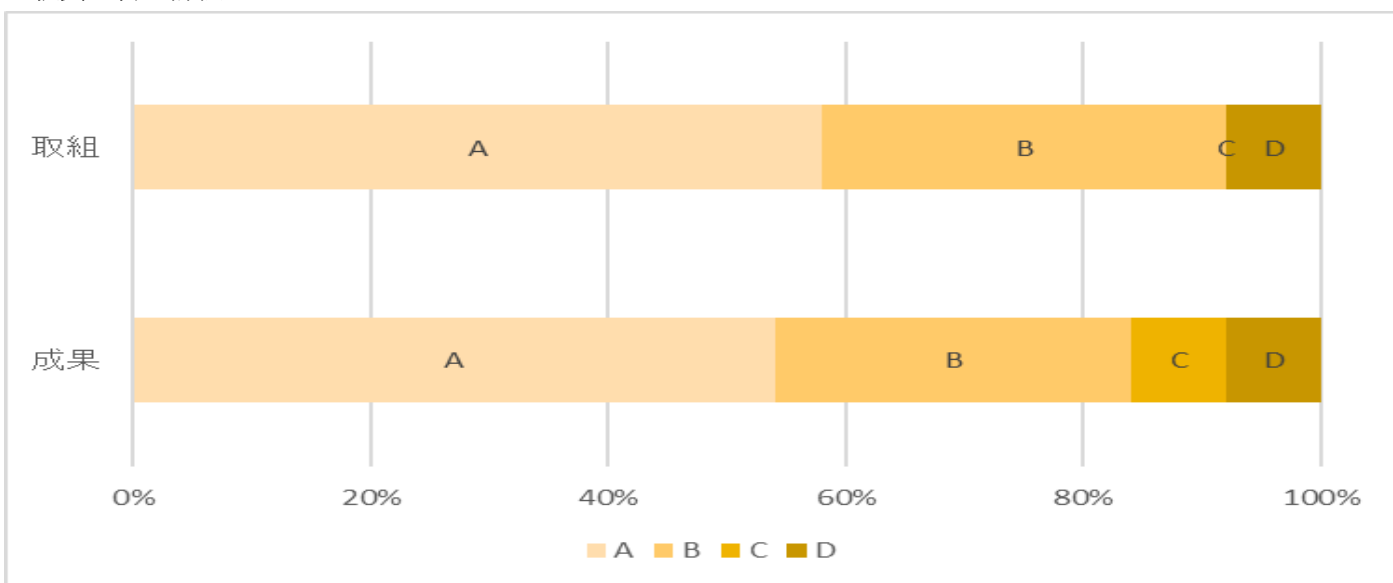
A 4人 B 1人 C 0人 D 0人 無回答 1人

A: 取組と成果は達成している B: 取組と評価はおおよそ達成している C: 取組と成果は達成しているとはいえない D: 取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・各種研修を積極的に行い、常に自己研鑽に努めていただきたい。
- ・カフェ研が大きな成果を上げているとのこと。発想がユニークです。
- ・主体的に研修に取り組んでいると思いますが、外からはよくわかりません。

<教員の自己評価>



上グラフ(取組) A: 意識して計画的に取り組んでいる B: おおむね取り組んでいる C: あまり取り組んでいない D: 取り組んでいない

下グラフ(成果) A: 十分に達成している B: おおむね達成している C: できているとは言えない D: ほとんどあられていない。

<今後の教育活動に向けて>

校内研究を中心に、全教員が授業に関わってきた。指導内容を検討し、授業を作り上げる経験は、一人一人の教員の授業力向上に役立った。

カフェテリア研修など、無理なく、短時間でできる研修の機会の拡充を図っていき、教員自身の指導力向上と自己有用感を高めていく。

⑭週あたり在校時間 50 時間以内とし、効率的に仕事を行う。(時間外勤務時間 45 時間/月)

<学校運営連絡協議会 委員 (6名) の評価>

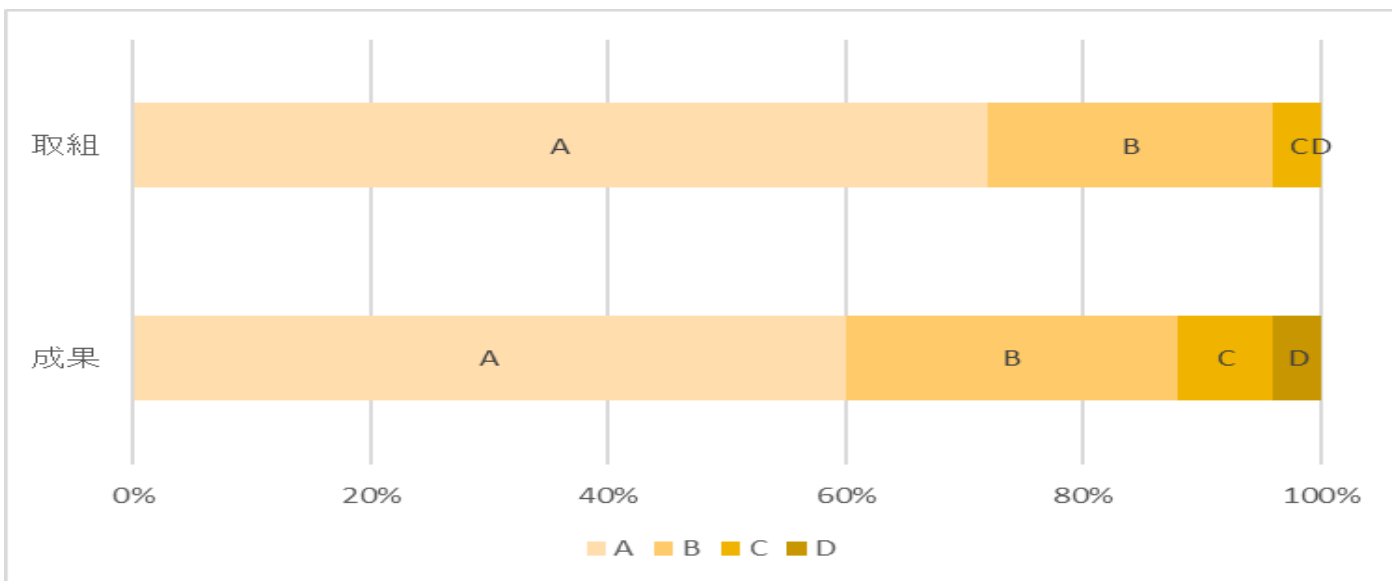
A 5 人      B 0 人      C 0 人      D 0 人      無回答 1 人

A : 取組と成果は達成している    B : 取組と評価はおおよそ達成している    C : 取組と成果は達成しているとはいえない    D : 取組は不十分、成果は現われていない

<コメント>

- ・どの会社でもそうだと思いますが、会議を減らすか、時間短縮に努めたらいいと思います。
- ・工夫により、成果を達成しているとのこと。さらなる、効率化を。

<教員の自己評価>



上グラフ (取組) A : 意識して計画的に取り組んでいる    B : おおむね取り組んでいる    C : あまり取り組んでいない    D : 取り組んでいない  
下グラフ (成果) A : 十分に達成している    B : おおむね達成している    C : できているとは言えない    D : ほとんどあらわれていない。

<今後の教育活動に向けて>

定時退勤日の設定や教職員から意見を吸い上げ、ボトムアップで校務改善に取り組んできた。その結果、勤務時間を意識して仕事に取り組む教員や見通しをもって計画的に業務を行う教員の姿が多く見られ、月当たりの残業時間は、平均で 28 時間程度に抑えられている。今後もより効率的かつ効果的な働き方ができるよう校務改善に努めていく。